

第29回 広瀬川創生プラン策定推進協議会議事録

■ 日 時：平成 27 年 11 月 18 日（水） 13：30～15：30

■ 場 所：仙台市役所本庁舎 2階第4委員会室

■ 出席委員：江成 敬次郎 会長、伊藤 絹子 会長代理、及川 稔 委員、工藤 秀也 委員、佐藤 克彦 委員（代理：難波 郁夫 氏）、菅井 一男 委員、杉山 ふじ子 委員、西大立目 祥子 委員、二本柳 基 委員、長谷川 裕寿 委員、深松 努 委員、宮原 育子 委員

■ 欠席委員：後藤 淳 委員、坂口 純子 委員、遊佐 久昭 委員

■ 事務局：仙台市建設局百年の杜推進部河川課

■ 司 会：河川課 安田 敏弘 課長

■ 次 第：

1. 開 会
2. 会長挨拶
3. 議 事
 - 1) 平成 27 年度重点事業の評価について
 - 2) 広瀬川市民会議の運営体制強化 取組状況の進捗について
4. 閉 会

■ 要 旨：

- 平成 27 年度の重点事業評価について、事務局提案内容で承認された。
- 広瀬川市民会議の運営体制強化について、広瀬川学校の継続開催をはじめ、他都市の人材育成事例等も参考にしながら、今後も 1 万人プロジェクトとの連携を進めていくことが、提言された。
- より多くの人々が広瀬川に関わるきっかけとすべく、「食」という観点や、専門家の視点を取り入れながら、広瀬川がもつ魅力・観光資源を再評価していく必要があることが、提言された。

■ 議事詳細：

1. 開会

○司会（安田課長）

ただ今より「第29回 広瀬川創生プラン策定推進協議会（以下、協議会）」を開会する。本日は、後藤委員、坂口委員、遊佐委員においては、本日、所用により欠席のご連絡をいただいている。また、佐藤委員においては、代理として国土交通省東北地方整備局仙台河川国道事務所調査第一課専門官の難波郁夫氏に出席いただいている。

続いて、仙台市職員の出席者については、手元資料の座席表をご確認いただき、紹介に代えさせて頂きたい。

2. 会長挨拶

○江成会長

お忙しい中、ご参集いただき感謝申し上げます。今回の協議会にあたっては、プラン改定後からの暖かい時期に広瀬川流域で行われた、様々な事業について協議会としての評価を行う。また、プラン改定の際に提言した、改定前の10年間の活動の中で見えてきた課題に対する解決案について、それらの効果・進捗について議論が必要な時期である。本日は活発な議論をお願いする。

○司会（安田課長）

続いて、建設局長の高橋より、一言ご挨拶申し上げます。

○高橋 建設局長

本日は、お忙しい中ご参集いただき、感謝申し上げます。ご挨拶に代えて、感謝の言葉を述べさせていただきます。

本日の協議会を最後として、設立当初より会長を務めていただいた、江成会長、ならびに会長代理を務めていただいた、伊藤会長代理が、10年の任期を満了となり退任となる。江成会長においては、当協議会のみならず、平成13年から平成18年までの間、広瀬川清流保全審議会の会長も歴任され、プラン、条例の両面から、広瀬川の環境保全・魅力創出にご尽力いただいた。また、伊藤会長代理においては、ご専門の水産資源生態学の見地から、広瀬川の環境保全についてご指導いただくとともに、最近では、第1回の広瀬川学校の講師をお引受いただき、広瀬川に住む生き物の暮らしについて、間近で観察できる機会を提供いただいた。

お二人にはこの場をお借りして、感謝申し上げるとともに、委員の皆様方には、今後とも引き続きご指導・ご協力をお願い申し上げ、私からの挨拶とさせていただきます。

○司会（安田課長）

なお、高橋につきましては、所要により中座させていただくことをご了承いただきたい。

3. 議事

○司会（安田課長）

本日は全15名の委員のうち、12名の方に出席いただいております、過半数を達しているため、本会は成立している。以降の議事の進行については江成会長をお願いする。

○江成会長

まず、今回の議事録署名は五十音順で工藤委員にお願いしたいがいかがか。

＝一同了承＝

0) 本日取り扱う議事について

○江成会長

まず、本日取り扱う議事内容について、事務局から説明をお願いします。

○事務局（杉井 広瀬川創生室長）

資料1に沿って、以下の項目について説明。

- ✓ 議事1「平成27年度重点事業の評価」について
- ✓ 議事2「広瀬川市民会議の運営体制強化 取組状況の進捗」について

○江成会長

今の事務局からの説明について、質問等が無ければ、議事に入るがいかがか。

＝一同了承＝

1) 「平成27年度重点事業の評価」について

○江成会長

それでは、議題1「平成27年度重点事業の評価」について、事務局から説明をお願いしたい。

○事務局（杉井 広瀬川創生室長）

資料2に基づき、以下の項目について説明。

- ✓ 「広瀬川で遊ぼう」の実施
- ✓ 「作並かっぱ祭り」の実施

(広瀬川で遊ぼうについて)

○江成会長

創生プランの重点事業の中でも、上流域および中流域における大きなイベントである2つについて説明頂いた。まず、広瀬川で遊ぼうについて、菅井委員から追加の内容があれば補足頂きたい。

○菅井委員

「広瀬川で遊ぼう」については、大きな問題なく実施することができた。今年度は「広瀬川エンジョイフォーラム」という任意団体を立ち上げ、「広瀬川で遊ぼう」の実行委員会を担当した。これまでは、毎年開催に合わせて実行委員会を組織し、終了後に解散していたが、今後は「広瀬川エンジョイフォーラム」が地元で根付いた様々な活動の受け皿となり、来年度以降も「広瀬川で遊ぼう」の実行委員会も務めていきたいと考えている。

「広瀬川エンジョイフォーラム」は、「広瀬川ボートくらぶ」を中心に以前から実行委員会に関わってくれたメンバーに加え、地域の企業、大学のボランティアグループ、地域の商店街の方々も参加しており、子供たちが川に関わる機会の提供や広瀬川の環境保全などの側面から、情報発信も積極的に行っていく予定である。「広瀬川で遊ぼう」についても、参加人数が震災前の水準まで戻りつつあり、今後も積極的な周知を行うことで、さらなる参加人数の増員も見込めると考えている。

○二本柳委員

「広瀬川で遊ぼう」の周知はどのような媒体を活用して行っているのか。

○菅井委員

市政だよりによる広報のほか、河北新報による記事掲載があったが、広告宣伝費が限られており、行き届いてないところがある。

○杉山委員

公益財団法人 仙台ひと・まち交流財団を通して、各市民センター等にチラシを配布している。また、その他に、関連のある小学校などにも、チラシを配布している。

○二本柳委員

(二本柳委員が所属する)仙台観光国際協会の活動として、海外から仙台に来られている方に対し、仙台の魅力を紹介している。本イベントについても、そういった方たちに対して働きかけることができると考える。

○杉山委員

海外の方との交流という意味では、今年の「広瀬川で遊ぼう」でも、例年フリーマーケットに出店いただいている方が留学生と思われる方たちと交流している場面があり、非常に微笑ましく素敵な光景であった。

また、今回の「広瀬川で遊ぼう」では学生のボランティアにも多く協力いただいたが、彼らの成長ぶりが印象的であった(「石ころアート」に従事してくれた学生ボランティアの例)。初日こそ何をして良いかわからない様子であったが、2日目には積極的に自分の役割を果たし、最終日には社会に目を向け始め、企業の方や、行政関係者との交流も図っていく場面があり、非常に頼もしく感じた。

(作並かっぱ祭りについて)

○江成会長

次に、作並かっぱ祭りについて、工藤委員から追加の内容があれば補足頂きたい。

○工藤委員

今回は申込方法を電子メールに限定することとしたために、(仙台市の規定により)「市政だより」には掲載できなかった。それにも関わらず、定員を大きく上回る申し込みがあり、抽選結果通知後も、何とか参加出来ないか、という内容の問い合わせが開催直前まで続いた。今回で8回目の開催となるが、「作並かっぱ祭り」の認知度はかなり高まったと思われる。

現代においては、親の世代も川で遊んだ経験に乏しく、「川遊び体験」を教えることができる人材が不足している。本イベントの根強い人気からも、「川遊び体験」に対する需要は相当大きいと感じており、「川遊び」に関するインストラクターの養成は急務であると認識している。

また、ボランティアとして学生を中心に協力をお願いしているが、作並までの交通費はかなりの負担となることから、仙台高等専門学校などの地元に近い学生にも協力頂けるよう、働きかけていきたいと考えている。

○長谷川委員

事務局と工藤委員のご説明に補足させていただく。今回は駐車場の許容量の関係で人数を制限したが、会場の広さやスタッフの人数の面で、結果的に適切に対応できる数の参加人数となり、安全面の管理がしっかり確保できたことが、主催者側として安心して実施できた一番の要因であると考えている。特に、一般の工場見学のお客様と、かっぱ祭りの参加者を完全に分離できたことにより、工場内の交通整理を安全に行うことができた。

今年度はスタッフも含めて400人程度であったと思うが、これまでの経験も考慮すると、450人程度が上限であると感じており、今後「作並かっぱ祭り」に関しては、無理に集客を求めるのではなく、参加者が安全に楽しめる内容を、実施者が安心して提供できるように努めていくべきであると考えている。

○江成会長

かっぱ祭りに参加する子供たちの、主な年齢層はどのあたりか。

○工藤委員

幼稚園から小学生までが中心である。

○江成会長

定員については、仙台市域の子供たちが、幼稚園から小学校卒業までの期間に、少なくとも1回は参加できるように設定するという考え方も、将来的に検討してもよいと思う。

○長谷川委員

9月の豪雨の影響で、かっぱ祭りの会場となっている河原の状況が一変している。特に、今年ニジマスつかみ取りを実施した場所は、底が深くえぐれており、来年度は同じ場所で行うのは難しい状況である。

○江成会長

本日は河川管理者である宮城県は欠席であるが、対応を働きかけることが可能か。

○工藤委員

川の様子大きく変化するのも自然のあり方のひとつである。まとまった雨が降れば、これまでのように埋まる可能性もあり、来年のことは、その時点で出来ることを考えれば良いと考える。

○江成会長

それでは、「広瀬川で遊ぼう」「作並かっぱ祭り」について、事務局提案の評価シートにあるように、それぞれのイベントにおける課題については、対策を検討しながら、次年度も継続するという事によっていか。

=一同了承=

2) 「広瀬川市民会議の運営体制強化 取組状況の進捗」について

○江成会長

それでは、議題2「広瀬川市民会議の運営体制強化 取組状況の進捗」について、事務局から説明をお願いしたい。

○杉井 広瀬川創生室長

- ✓ 資料5に沿って、広瀬川学校 実施報告書について説明。
- ✓ 資料6 およびチラシに沿って、広瀬川フォーラムについて説明。

○江成会長

今の事務局からの説明に対して、何か意見や質問はあるか。

○伊藤会長代理

広瀬川学校の講師役を務めさせていただいた。子供たちが実際に水に入って体験する機会を提供できてよかったと思う。しかし、川に入るというのは危険が伴うことも事実であり、今回のような少人数であれば問題ないが、今後この活動等を拡大していく上では、安全管理を十分に念頭においておく必要がある。また、今回は漁協の方の協力が得られたおかげで、シジミの提供も頂くことができ、実際に食することができた。自分たちの身近に漁獲に関わっている人々がいるということを大切にしていきたい。

○西大立目委員

今回のような体験型のイベントは参加人数を増やすのは困難であり、その場合は外部への委託と

いう形になりやすい。しかし、少人数であるからこそ伝えられることも多いはずであり、人数を絞ってでも、継続して回数を重ねていくことで、運営側にもノウハウが蓄積されていくと考える。その中で1万人プロジェクトの方たちにも運営に携わってもらうことで、人材育成につながっていけばよいと思う。

○杉山委員

今回の「広瀬川学校」は運営側も純粋に楽しむことができた。このような「大人が楽しめる機会」に対するニーズは大きいと感じており、「広瀬川学校」がそれに応えられる場になれば良いと考える。

○工藤委員

山形県の鮭川村が環境省と連携して活動をしている。鮭川村は自然が豊かで、1年を通して川からの恵みを得ることが出来るが、川に関わる切り口として「食」という観点は重要であると認識している。

○江成会長

「食」は暮らしの中でも重要な部分であり、漁協との関係は、今後もより強化していく必要がある。

○宮原委員

川に関わる人材の育成という観点では、視野を広瀬川より広げ、他地域で自然学校として川遊びをしている方を講師として招く事も必要ではないか。例えば、ジオパーク(山・川・断層などの地形そのものを一つの公園ととらえたもの)を案内する「ジオガイド」を養成する活動がある。その中でも、金沢の白山手取川ジオパークは、同じ「川」に関するジオパークであり、こういった取組みも、参考にしていけばいいのではないか。

また、広瀬川の魅力発信という観点では、広瀬川1万人プロジェクトの名称にちなんで、「広瀬川1万人芋煮大会」を企画してはどうか。大勢の仙台市民が、河川敷で芋煮を楽しんでいる風景を新幹線から他都市の人が眺められたら、PRにつながるのではないかと考えている。

○工藤委員

5~6年前に観光コンベンション協会(現:観光国際協会)と商工会議所に同様の企画を働きかけたことがあったが、実現しなかった。今後もチャレンジしてほしい。

○菅井委員

「広瀬川で遊ぼう」を開催している宮沢緑地は地下鉄の駅も近く、ロケーションは非常によい。ここで芋煮会や花見ができれば多くの人々が広瀬川を訪れるきっかけになると思う。桜の植樹や火気の使用といった面で、それぞれの管理者から許可を得ることは非常に難しいとは思いますが、先ほどから話題になっている「食」という観点とも合致していることもあり、将来的な実現を目指していきたい。

○二本柳委員

これまでの話を総合すると、広瀬川には活用しきれていない観光資源まだまだあるように感じる。それらを一度見直して、魅力発信や集客に結びつける取り組みが必要と考える。

○工藤委員

西大立目委員の街歩き、東京スリバチ学会の皆川氏の案内、木村氏による伊達政宗のまちづくりと広瀬川の関わり、といった専門家の視点を取り入れることで、広瀬川の魅力を再発見することができる。それらを最終的には、まちづくりに生かしていくことが重要である。

○江成会長

1万人プロジェクトの様子として、一斉清掃以外の活動に対する反応が小さいように見受けられる。

○深松委員

1万人プロジェクトに参加している企業は、大企業が多く、担当者が新しいことをやりたいと思っても、なかなか実現まで結びつかないのが現実である。その点では、まずは比較的フットワークの軽い、自社も含めた地元企業からのスタートでも良いと考えている。

○菅井委員

1万人プロジェクトに参加している企業には、環境アセスメントの関係で、生態系や水・土壌環境などに精通した専門家が所属しているはずである。こういった人やその所属企業に声掛けを行い、広瀬川学校の講師役等、積極的な関わりを求めていく必要がある。

○江成会長

他に意見・質問がなければ、以上の内容を事務局で議事録にまとめていただき確認することとして、本日の議事を終了したい。

＝一同了承＝

4. 閉会

○司会（安田課長）

以上をもって「第29回広瀬川創生プラン策定推進協議会」を終了する。

以上